

《企業紹介》

同社は2007年7月に国道13号線（ホーチミン近郊から北西に伸びてビンズオン省を縦貫してカンボジア国境に至る主要幹線道路で一部は高速道路となっている）の通行料徴収や管理業務のために設立された。2008年10月には不動産開発事業の免許を取得してビンズオン省の国道13号線周辺の不動産開発事業に進出している。ビンズオン省人民委員会が95%を出資する不動産開発大手のベカメックス IDC 社（BCM）が発行済株式の78.8%を保有している。

ビンズオン省は長年にわたって海外企業の生産拠点誘致に積極的に取り組んできた結果、ベトナムでは屈指の所得水準を誇る州となっている。高い生活水準、魅力ある雇用環境、より良い雇用を目指した人材の流入などが、更なる工業団地開発需要や住居やインフラを含めた都市開発需要を生み出すという好循環が同社の業績成長の牽引役となっている。ベカメックス IDC 社やビンズオン省人民委員会との協力関係もプラス要因として考えることができよう。

《2026年1—3月期決算》

2026年1—3月期の売上高は前年同期比69.4%増の2,535億VND（ベトナムドン）となった。通行料および管理業務の収入が同7.8%増の832億VNDとなったほか、住宅物件の引き渡しにより不動産売却収入が同14.8倍の1,350億VNDに拡大したことが牽引役となっている。粗利益率は同4.9%ポイント低下の52.3%と、2025年10—12月に引き続き前年同期比で低下したため、粗利益は同54.8%増の1,325億VNDとなった。

営業利益は同120.9%増の1,242億VNDだった。販売費および一般管理費が同7.3%増の296億VNDにとどまったこと、金融収支が前年同期の89億VNDの支払超過から50億VNDの受取超過に転じたことが貢献した。金融収支の改善は2025年9月期に実施した株主割当増資によって手元資金が増加し、受取利息が大幅に増加したためである。税前利益は同129.0%増の1,259億VND、純利益は同129.4%増の1,043億VNDとなった。売上高の減少傾向に歯止めがかかり、利益水準の後退も止まったようだが、成長軌道への回復はみられない状況からは脱していないといえそうだ。

図表1 四半期業績の推移（単位 十億VND）

	2025年1-3月期		2025年4-6月期		2025年7-9月期		2025年10-12月期		2026年1-3月期	
		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)
売上高	149.6	-7.7	174.1	-55.2	671.6	255.0	597.5	95.1	253.5	69.4
粗利益	85.6	5.3	150.6	6.8	321.4	231.1	252.8	72.4	132.5	54.8
粗利益率(%、%ポイント)	57.2	7.1	86.5	50.2	47.9	-3.4	42.3	-5.6	52.3	-4.9
金融収支(マイナスは収入)	8.9	1.4	20.9	27.9	13.2	108.1	10.3	-45.7	-5.0	-
販売費および一般管理費	27.6	8.5	27.2	-4.0	77.6	180.0	78.2	171.2	29.6	7.3
営業利益	56.2	19.4	146.3	48.2	303.6	185.0	155.1	-11.7	124.2	120.9
税前利益	55.0	12.2	146.4	58.4	299.1	202.8	157.4	-10.7	125.9	129.0
純利益	45.5	15.9	127.0	72.6	254.4	193.7	120.3	-23.0	104.3	129.4

出所 各種資料をもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20260508

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。外国株式は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。

ベカメックスIJC (IJC)

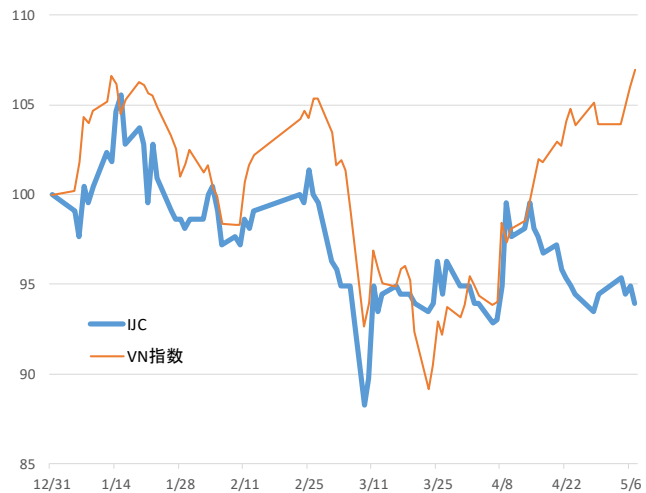


《株価の推移》

図表2は同社の株価とVN指数について、2025年末の終値を100として指数化したものだ。同社の株価パフォーマンスは2026年の年初から概ねVN指数と連動していたが、4月中旬以降はVN指数の上昇に対して下落しており、アンダーパフォームが顕著になっている。5月7日終値ベースでは、VN指数が2025年末比7%の上昇となっているのに対し、同社の株価は6%の下落となっている。5月7日の終値10,100VNDで計算した時価総額は6.3兆VNDであり、これは2025年12月期の純利益の実績5,176億VNDに対して12倍の水準となっている。

同社は2026年12月期について、売上高が前期比54%増の2兆4,540億VND、税前利益を同5%増の6,530億VNDと計画している。2026年1—3月期実績の進捗率は、売上高が10%、税前利益が19%となっており、不動産の売却収入が物件引き渡し時期に大きな影響を受けることを考慮すると、計画の進捗は概ね計画通りといえそうだ。ベトナムでは、政府主導でインフラへの投資拡大が進められており、住宅投資も回復基調にある。同社の事業環境は好転し始めているといえそうだが、2026年12月期の会社計画は、2021年12月期の売上高が2.6兆VNDだったことを考慮すると物足りなさが残る。好転する好環境をどのように成長に結びつけていくのかを具体的に示し、実績を挙げることが株価パフォーマンス改善の鍵を握っているといえよう。

図表2 株価の推移



出所 株価データをもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20260508

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。外国株式は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。